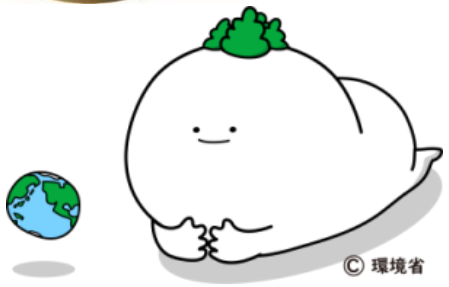
エコアクション21
環境経営レポート

第48期（2023年7月1日～2024年6月30日）

認証・登録番号0000139



太平電機株式会社

作成：2024年9月30日

この資料作成時にはCO2排出ゼロの
電力を利用しています。

目次

１．組織の概要（P.3～P.6）
２．環境経営方針（P.7）
３．環境経営目標（P.8）
４．環境経営計画と実績（P.9～P.15）
５．二酸化炭素排出量の推移（P16）
６．生態系保全の取組（P.17～P.22）
７．災害時等のソーラー電源システム（P.23）
８．脱炭素を広める活動（P.24～P.26）
９．環境関連法規への違反、訴訟等の有無（P.27）
10．代表者による全体の評価と見直し・指示の結果（P.28～P.30）

１．組織の概要

①事業所名及び代表者名

太平電機株式会社

代表取締役　　樋口　公平

②所在地

本社　　神奈川県横浜市神奈川区反町2-15-6

埼玉営業所　　埼玉県上尾市本町3-7-6

③環境管理責任者及び担当者の連絡先

代表取締役　　樋口　公平

TEL 045-322-5055

FAX 045-322-5057

１．組織の概要

④事業活動の概要

コネクター、スイッチ、ハーネス加工品、太陽電池、リチウムイオン電池の企画・提案及び仕入れ・販売、自然保護関連雑貨品の企画・販売

⑤事業の規模及び認証・登録対象範囲

事業所	床面積	従業員	売上高	事業内容	登録範囲
本社	180m^2	13人	970百万円	１．④項参照	全組織・全活動
埼玉	365m^2	8人			

１．組織の概要

⑥環境経営組織図

社長
樋口　公平

環境管理委員会

＜委員会メンバー＞
・社長
・環境管理責任者
・事務局
・環境責任者
・業務部長
・埼玉営業所 所長

環境管理責任者
樋口　公平

事務局
臼井　洋恵

本社：環境責任者
臼井　洋恵

埼玉：環境責任者
大畠　秀一

1. 組織の概要

⑦主要な役割、責任・権限

職務	主要な責任と権限
社長	・環境マネジメントシステムに必要な経営資源を準備し投入する。 ・環境マネジメントシステムの実施体制を構築する。 ・環境管理責任者、事務局、環境責任者を任命する。 ・環境経営方針を制定する。 ・環境管理委員会を開催し、環境マネジメントシステム全体を見直す。 ・経営における課題とチャンスの明確化。
環境管理責任者	・環境マネジメントシステムを構築し、実施、維持する。 ・環境マネジメントシステムの実績を社長に報告する。 ・環境経営レポートを作成、公表する。 ・環境マネジメントシステムにつき外部関係者と連絡をとる。
事務局	・環境管理責任者の実務を補佐又は代行する。
環境責任者	・環境管理責任者の指示により環境活動計画を実施する。 ・環境負荷データを把握するとともに環境経営目標の達成状況を監視し、環境管理責任者に報告する。 ・必要な是正処置又は予防処置を実施する。 ・適用される環境関連法規制を遵守する。
環境管理委員会	・環境マネジメントシステム全体を見直すために社長が開催する。 ・開催時期：原則毎年9月開催し、必要に応じて臨時開催する。 ・出席者：社長、環境管理責任者、事務局、その他社長が指名する者。

2. 環境経営方針

環境経営方針

太平電機株式会社は電機部品を販売する商社として、
地球環境の保全が地球全体の為の最重要課題であると認識し、
企業活動の全ての領域において、地球環境の保全に配慮し行動します。

太平電機株式会社は以下のことを約束する。

1）環境関連の法規制等を遵守する。

2）環境活動プログラムを構築し継続的な改善を行う。

3）次の事項を重点的なテーマとして環境目標を設定し推進する。

①電機部品の仕入れ・販売における環境負荷の低減。
②二酸化炭素排出量の削減。
③廃棄物の削減とリサイクルの促進。
④グリーン調達の推進。
⑤太平電機の商品が地球環境に貢献することを目指す。
⑥生物多様性の推進に取り組む。

この基本方針は全従業員に周知徹底させると共に社外にも開示します。

令和4年11月30日
太平電機株式会社
代表取締役社長　　樋口　公平

3. 環境経営目標

NO.	環境目標	単位	基準値 （43期） 2018.07-2019.06	48期 2023.07-2024.06	49期 2024.07-2025.06	50期 2025.07-2026.06
1	目標値：電気使用量の削減 管理値：CO2排出量 排出係数＝0.451（令和3年度東京電力エナジーパートナー㈱） ＝0.000（令和4年度㈱LOOOP メニューA） ※調整後係数	kWh	15,605	**16,825****	**16,657**	16489
		kg-CO^2	7,038	0	0	0
2	目標値：ガソリン使用量の削減 管理値：CO2排出量 排出係数＝2.32	ﾘｯﾄﾙ	1,994	**0*****	0	0
		kg-CO^2	4,628	**0**	0	0
3	目標値：軽油使用量の削減 管理値：CO2排出量 排出係数＝2.58	ﾘｯﾄﾙ	2,303	2,165	0 *	0
		kg-CO^2	5,953	5,585	0	0
4	廃棄物排出量の削減 目標値：最終処分量	kg	562	534	528	523
5	水使用量の削減 目標値：最終使用量	m^3	282	268	265	262

**EV＝2台追加導入（1台＝1000kWh/年と計算） ***ガソリン車＝2台廃止 *軽油使用車＝廃止

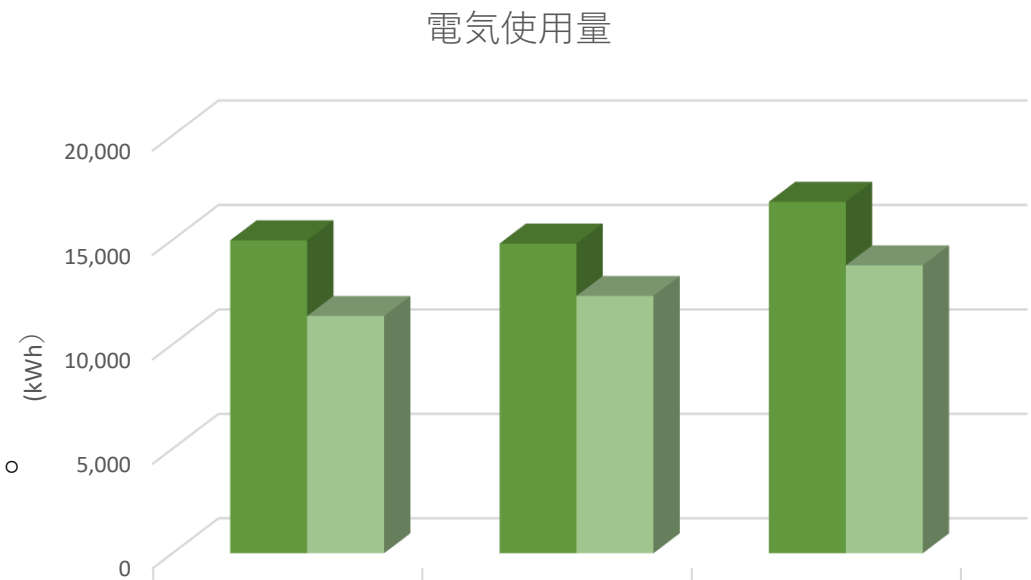
4-1. 環境経営計画と実績（電気使用量）

4-1　電気使用量の削減（目標値＝16,825kWh）

＜目標達成手段＞
・空調設定温度の遵守　　・省エネ型エアコン
・LED照明　　・ソーラーパネル
・RE100電力の使用（2021年6月～）

＜評価＞　達成：13,781kWh
埼玉営業所：新倉庫増設時、4ヶ月間東京電力から電力供給を受ける必要があり、RE100電力へ戻すまでの使用量の加算(CO2も)。
ソーラーパネル（新倉庫も設置）と省エネエアコンの効果。
全車両を電気自動車(EV)へ切替し、充電による使用量が増加。

＜次年度の環境経営計画＞
電気自動車(EV)充電による実績値が増えるが、
(ソーラー) 日中充電での自給充電を増やすよう心掛ける。



	46期	47期	48期
目標値	14,981	14,825	16,825
実績	11,359	12,318	13,781

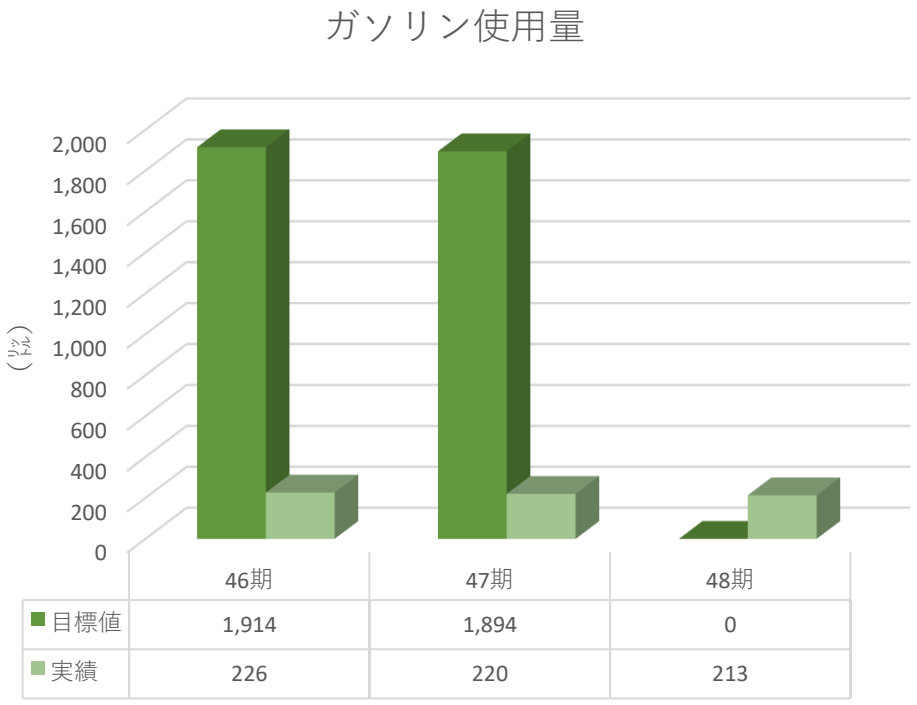
4 -2. 環境経営計画と実績（ガソリン使用量）

4-2　ガソリン使用量の削減（目標値＝0㍑）

＜目標達成手段＞
・効率の良い運行＝　（エコドライブ10のすすめ）
・公共交通機関の積極利用　・ web会議の活用（社用車使用を削減）

＜評価＞　未達成：213㍑
EV車両への切替が遅れたため、使用量は未達成となった。
2024年1月で全車両がEV車両へ切替完了。
本社にもEV充電器を設置し、全社RE100電力で脱炭素充電の
体制が整った。
タイムズカーシェアの利用を開始。

＜次年度の環境経営計画＞
49期は使用量・CO2＝ゼロへ。



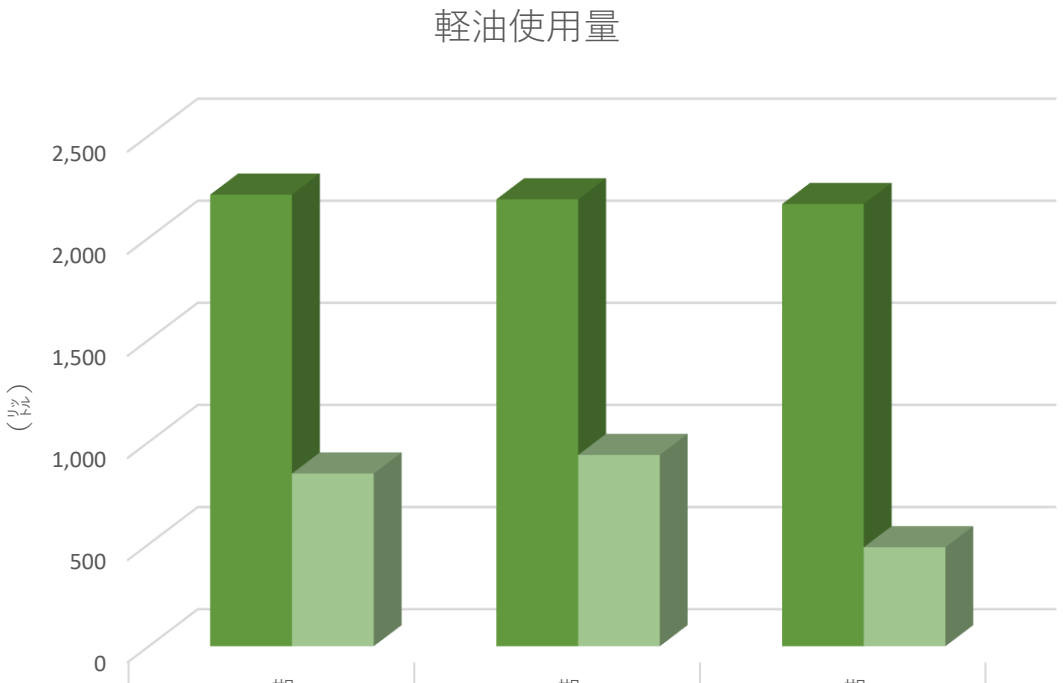
4 -3. 環境経営計画と実績（軽油使用量）

4-3　軽油使用量の削減（目標値＝2165㍑）

＜目標達成手段＞
・効率の良い運行（エコドライブ１０のすすめ）
・公共交通機関の利用
・web会議の活用（社用車使用を削減）

＜評価＞　達成：484㍑
Web会議の活用（社内会議や社外の商談）。
EV車へ切替済。軽油使用車＝０台になる。
タイムズカーシェアの利用を開始。

＜次年度の環境経営計画＞
49期で使用量・CO2＝ゼロへ。



	46期	47期	48期
目標値	2,211	2,188	2,165
実績	845	936	484

4-4．環境経営計画と実績（廃棄物排出量）

4-4　廃棄物排出量の削減（目標値＝534kg）

＜目標達成手段＞

・ゴミの分別を徹底　・3R(Reduce、Reuse、Recycle)の実施　・ペーパーレス化

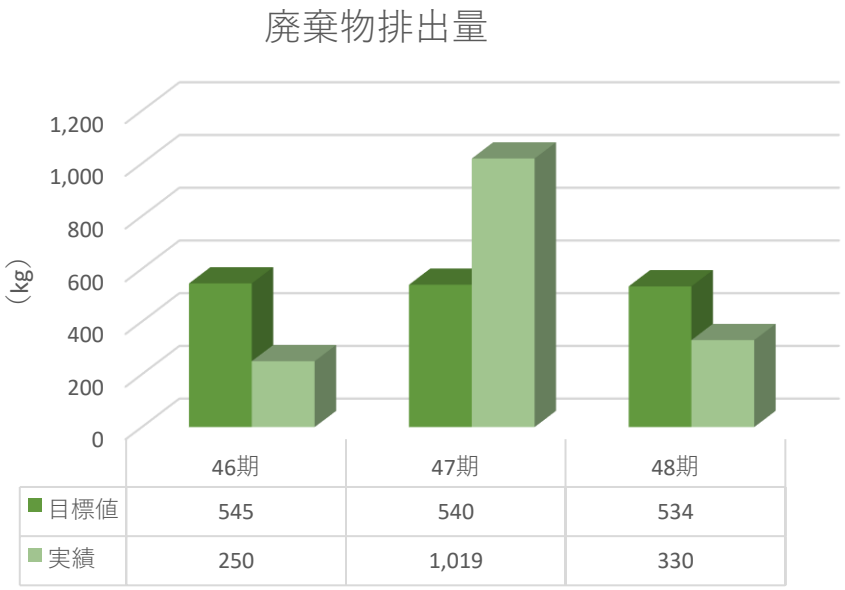
＜評価＞　達成：330kg

・ペーパーレス化による会計書類廃棄を実施した。

・本社事務所に国産無塗装木材のデスク・天板を導入。古い机も再利用。
（キイノクス プロジェクト＝P24参照）

・販売しなくなった電子部品をリサイクル・リユースを目的に寄付・提供。
☆障害者就労支援施設施設トムトム様へ寄付（分別しリサイクル）。
☆取引先様へハーネス加工などの練習用に提供。

・11月石坂産業様（産業廃棄物リサイクル工場・生物多様性の里山）にて
社員研修を実施。
廃棄物循環利用の講義・自然共生の活動など、廃棄物の現状を学びました。



＜次年度の環境経営計画＞

引き続き、ペーパーレス・廃棄になる商品のリサイクル・リユース化（電子部品）で廃棄量削減する。

4 -5. 環境経営計画と実績（水使用量）

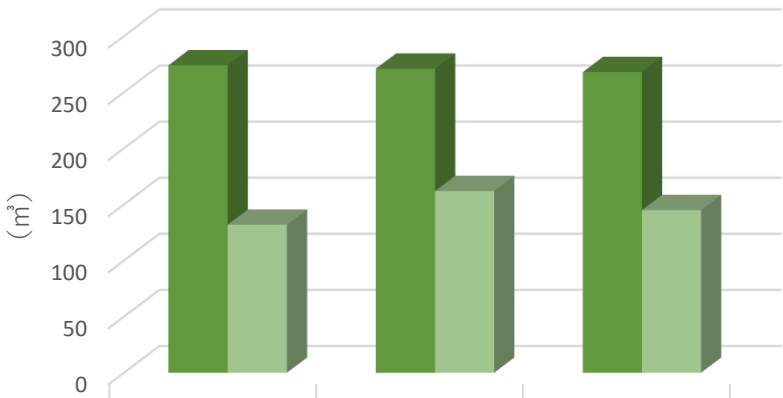
4-5　水使用量の削減（目標値＝268㎥）

＜目標達成手段＞
・漏水、垂れ流しの防止
・節水型トイレ導入（本社）

＜評価＞　達成：145㎥
節水型トイレによる削減効果。
埼玉：天水尊の新設により雨水を溜め、
猛暑時に事務所周囲の打ち水として利用。

＜次年度の環境経営計画＞
引き続き、無駄使いをしないよう心がける。
雨水の利用も継続。

埼玉営業所
雨水を天水尊に溜め、打ち水に利用



	46期	47期	48期
目標値	274	271	268
実績	132	162	145

4 -6. 環境経営計画と実績
(環境配慮型コピー用紙への切替率)

4-6　環境配慮型コピー用紙への切替率

47期から間伐に寄与する「森の町内会」コピー用紙の購入を開始。
ＦＳＣ認証用紙からの購入切替率を管理。

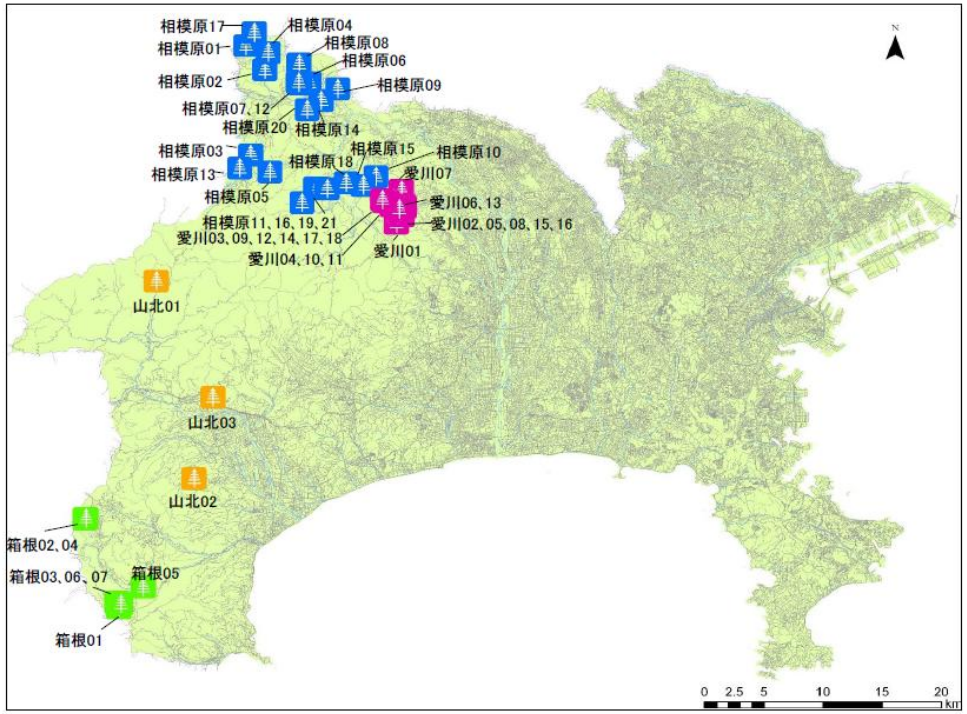
【「森の町内会」の仕組み 】
企業が環境貢献として「間伐に寄与する紙」を購入・使用し、
間伐費用の不足分を補完する仕組み。
１kg当たり15円の間伐促進費を付加した「間伐に寄与する紙」を
購入して印刷用紙に使うと、間伐促進費の全額が間伐と間伐材の
有効利用に充てられる。

＜実績＞**48期＝100%　切替を達成　（A4用紙 35,000枚）**
（A4用紙=1枚4g換算）140kg×15円＝2,100円が間伐促進費となる。
（前期＝58%・A4/B4 24,000枚）

＜次年度の環境経営計画＞
購入率100%継続。取引先へ森の町内会用紙を会社案内やカタログ
に利用してアピール。

森の町内会　間伐のご報告　2024年7月
環境NPOオフィス町内会

「かながわ森の町内会」間伐支援マップ



凡例: 間伐・出荷完了

間伐支援の実績　※かながわ森の町内会様の実績

	「間伐に寄与する紙」の使用量	「かながわ森の町内会」指定間伐材の出荷量（ﾁｯﾌﾟ化後絶乾ﾍﾞｰｽ重量）	「かながわ森の町内会」による間伐実施面積
2010年度～2022年度	838.7 t	816.2 t	83.4 ha
2023年度	17.5 t	21.9 t	7.7 ha
計	856.2 t	838.1 t	91.1 ha

かながわ森の町内会様　活動報告書より抜粋

4 -7. 環境経営計画と実績 （生物多様性の取組）

4-7　生物多様性支援事業の活動数（売上回数）

48期（今期）から、生物多様性支援事業の活動数（売上回数）を管理。

＜事業としての主な活動＞

・企業様の工場敷地や庭、未利用の山林の生物を調査　・植樹（CO2吸収）の提案

・自然共生サイト認定支援　・バードピア認定支援　・生物多様性の講演会

・自然保護関連装置の販売

（ 6-5 生態系保全の取組　企業・団体の生物多様性支援事業ページ：Ｐ22参照）

＜実績＞　48期＝**28回**

自然共生サイト取得支援による認定取得実績＝１団体

バードピア取得支援による認定取得実績＝２社

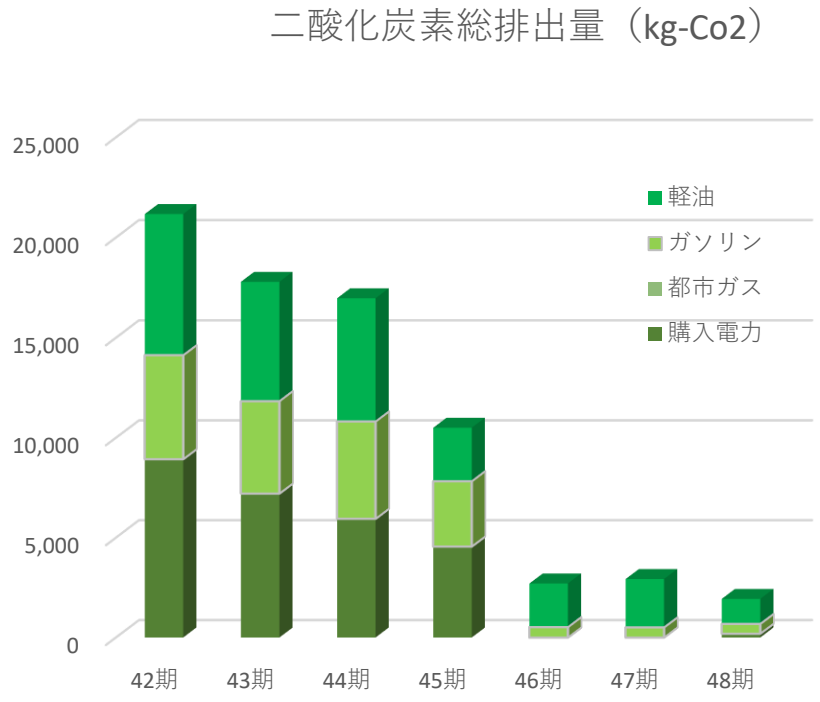
＜次年度の環境経営計画＞

継続実施。

5．二酸化炭素排出量の推移

単位（kg-CO²）

エネルギー	42期	43期	44期	45期	46期	47期	48期
購入電力	8,876	7,210	5,937	4,552	0	0	**190 ※1**
都市ガス	54	0	9	2	0	0	0
ガソリン	5,205	4,628	4,875	3,273	523	511	494
軽油	7,038	5,953	6,150	2,678	2,181	2,415	1250
二酸化炭素 実総排出量	21,172	17,791	16,971	10,505	2,704	2,926	1 ,934
カーボニュートラル 貢献量(P.24証明書)							**▲450 ※2**
総排出量 （カーボンニュートラル分含む）							1,484
削減手段		埼玉 ソーラーパネル		LOOOP電気 2021.06 RE100 埼玉　EV 営業リモート化	本社 省エネエアコン 節水型トイレ		本社EV 車両台数減 埼玉倉庫 ソーラーパネル **国産木材机**



※１　RE100やソーラーにより2期排出量ゼロだったが、埼玉新倉庫増設工事時、
　　４ヶ月間東京電力を使用せざるを得なかった為。
※２　国産木材を使用のオフィス家具導入によるカーボンニュートラル貢献量（P.24　カーボンニュートラル貢献量証明書参照）

・次年度はEVへの全面切り替え（全社・2024年3月切替済）により排出量ゼロを達成予定。

6-1. 生態系保全の取組

地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

【地域の自然を守るタオル®の販売】

無農薬・無化学肥料の原材料、非化学精錬・草木染による製造方法のタオルで、
農地や水系の生態系に配慮しています。

その土地の希少野生動物を刺繍したタオルを作成・販売しています。
「売上1枚当たり100円をその地域の自然保護団体へ寄付する」という取り組みです。
障がい者就労支援施設に包装作業を発注しております。

アオウミガメ（タグ付き）（左）
アカウミガメ（タグ付き）（右）

〈48期の主な活動〉

★ 新規販売店

屋久島/屋久島観光センター、まごころ市ぽんたん館、屋久島環境文化財団、
屋久杉自然館
徳之島/直売所 百菜、エコツアーガイド
西表島/ゆりみな
栃木県/道の駅はが
和歌山県/すさみ町立エビとカニの水族館
奄美大島/ 海の駅　みやげ処せんとうち
種子島/ hau’oli （ハウオリ）
石垣島/たまよせ動物病院
三重県/三重県総合博物館売店MieMu SHOP
合計 44店舗

★ 新規寄付先/保護団体

屋久島いきもの調査隊　日本野鳥の会三重　屋久島町鳥獣被害対策協議会
サシバサミット2023台湾　日本鳥類保護連盟　寄付団体合計 18 団体　1個人

48期寄付金合計 2,283,700円（前年対比106.8%）　累計寄付金額 7,314,300円

6-2. 生態系保全の取組

11 住み続けられるまちづくりを　12 つくる責任 つかう責任　14 海の豊かさを守ろう　15 陸の豊かさも守ろう　17 パートナーシップで目標を達成しよう

地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム
私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

【環境にやさしい再利用素材や、エコな印刷を採用】

★クラフトビールペーパー《　47期より継続中　》

ビールの搾りかすを使用し製紙したクラフトペーパーをタオルの台紙用に採用。搾りかすの協力は横浜ビール様。製紙は横浜のKitafuku様。

VOC FREE　ZERO® CO₂ PRINT　CRAFT BEER PAPER

★ノンVOCインキ印刷　《　47期より継続中　》

エコな印刷は横浜の大川印刷様。大気汚染や化学物質過敏症の原因となる揮発性有機化合物を含まない、ノンVOCインキ（石油系有機溶剤０％）を使用して印刷していただいております。

★バイオマスビニール袋　《　47期より継続中　》

脱プラスチックの一環として、バイオマス10CPPを使用したビニール袋を採用。石油100%由来の材料から、植物由来の材料10%が使われているフィルムです。

6-2. 生態系保全の取組

★【　新規　】海洋プラスチックを一部使用のボールペンを、ノベルティに採用。
回収された海洋プラスチックを一部、再生材料として使用しているボールペンを、営業活動用のノベルティとして採用いたしました。少しでも海洋プラスチックの回収と再利用に貢献したいとの思いからです。また、弊社が日本ウミガメ協議会に寄付支援していることをアピールしています。

★【　新規　】南高梅剪定枝を再利用して染めたタオルを製作（アップサイクル）
世界農業遺産登録地域、和歌山県「みなべ・田辺」地域にある「なかはや果樹園」の南高梅の剪定枝を提供していただき、それを活用して染めたタオルを製作しました。通常なら畑に肥料として埋め込むか、廃棄されるはずの剪定枝を、**アップサイクルして**草木染めに活用することで、新たな価値を発掘し、更に南高梅というナンバーワンブランドで染めた、という付加価値を生み出しています。
また、南高梅剪定枝を使用して染めていることで、地域性を強く打ち出しており、地域活性化という側面に強く貢献できるアイテムです。
更に地元の自然保護に寄付が行くことで、山から海へ、海から山へ、環境保全と自然保護の循環を実現しています。

南高梅剪定枝を活用したタオル、
アカウミガメ（タグ付き）

6-3. 生態系保全の取組

【どうぶつレスキューボックスの販売開始　2022年1月】

奄美・沖縄が世界自然遺産に登録されました（2022年）

交通事故に遭う動物はいまも後を絶ちません。
アマミノクロウサギなどの貴重な野生動物の命を少しでも助けたい、
そんな気持ちからどうぶつレスキューボックスが生まれました。
正しく、早く動物病院に運ばれれば助かる命があります。
アマミノクロウサギなど交通事故（ロードキル）で轢かれた動物を発見したら、
普段から車に備え付けていただく専用ボックスに入れて**動物病院に運び**、
治療に繋げて**命を救うしくみ**です。

どうぶつレスキューボックス

〈46期からの主な活動（継続中）〉

・傷病野生鳥獣保護対策事業に関わる診療施設	奄美いんまや動物病院、ゆいの島動物病院
・レスキューボックス導入行政・団体・企業（世界自然遺産推進共同体）	奄美市、宇検村、龍郷町、瀬戸内、徳之島町、喜界町、天城町、伊仙町、大和村　9市町村 10公共教施設
・民間企業	9社

搭載用ステッカー

〈累計販売数〉・523枚

6-4. 生態系保全の取組

【生物の保護装置事業】

- 絶滅危惧種の生物を調べる、守るために電子部品商社のノウハウを生かした取り組みをしています。
- 各地の自然保護団体と共同でその取り組みを進めています。

奄美大島のサシバの渡り調査を
クラウドファンディングの
返礼品で支援

沖縄島　ヤンバルクイナ　ロードキル防止
センサーシステム開発。現地試験継続中

日本ウミガメ協議会向け
ウミガメ調査用装着タグ
新型版開発、実験継続中

6-5. 生態系保全の取組

【企業・団体の生物多様性支援事業】

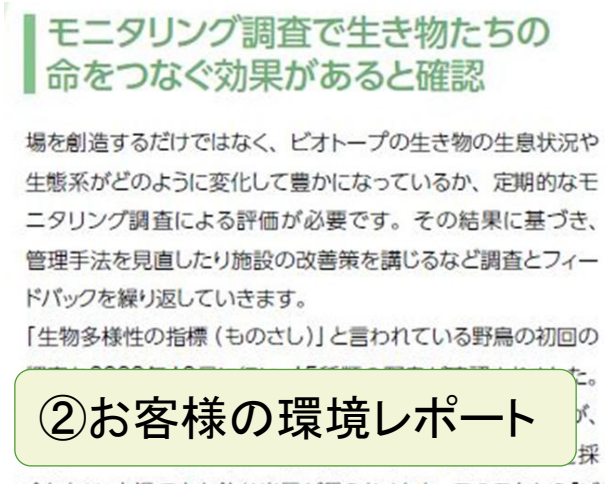
①企業団体様の庭、工場敷地などの野鳥調査
②野鳥調査結果から環境レポートの作成支援
③野鳥調査結果からネイチャーポジティブの支援
④庭、敷地のバードピア（日本鳥類保護連盟）認定、継続の支援
⑤環境省の30by30アライアンスメンバーに加入
⑥環境省の「自然共生サイト」取得の企業の生物調査、申請支援
⑦企業向け生物多様性の講演、観察会
⑧県議・市議向け生物多様性勉強会の実施

④

⑤

日付	鳥類目録7版順		2022.12.03						
累計種数	科	園敷地内確認種	裏山エリア	裏山センサス確認数	ビオトープエリア	留/夏/冬	主な利用	環境省RL	神奈川県RL
1	タカ科	ハイタカ			○	留鳥	林上空	準絶滅危惧	希少種
3	カラス科	ハシボソガラス	○	1		留鳥	住宅地		
	カラス科	ハシブトガラス			○	留鳥	林		
4	シジュウカラ科	シジュウカラ	○	1	○	留鳥	餌台		
6	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	8	○	留鳥旅鳥	林		
	ウグイス科	ウグイス							
7	メジロ科	メジロ	○						
合計	6	7	4						
外来種	チメドリ科	ガビチョウ							

②野鳥調査結果


モニタリング調査で生き物たちの命をつなぐ効果があると確認

場を創造するだけではなく、ビオトープの生き物の生息状況や生態系がどのように変化して豊かになっているか、定期的なモニタリング調査による評価が必要です。その結果に基づき、管理手法を見直したり施設の改善策を講じるなど調査とフィードバックを繰り返していきます。

「生物多様性の指標（ものさし）」と言われている野鳥の初回の

②お客様の環境レポート

⑦生物多様性講演

①⑥野鳥など生物調査

7. 災害時等のソーラー電源システム（障害を持つ方のために）

おひとりおひとりに合わせたシステムの提案と導入

自然再生エネルギーを利用したソーラー発電システム（脱炭素）
・ベランダ用　　・車載用

停電時に家庭で電源を得ることは、特に医療機器を使用されるご家庭では
電気製品の停止リスクを回避する方法として必要です。

医療的ケア児支援法の趣旨に則って
災害時等の電源確保手段として事業を展開しています。

ご使用になる医療機器の電力や使用時間を確認させて頂き、また設置場所などを伺い
必要なソーラーパネルの枚数やポータブル電源の種類や台数を計算し提案致します。

〈防災展に出展〉

・神奈川県立茅ケ崎支援学校　2023年9月・防災展　2023年10月・防災キャンプ参加
・神奈川県横浜市戸塚区原宿地域ケアプラザ 2024年5月・防災展

8 -1.脱炭素を広める活動

・everiwa ＜ＥＶ充電普及で脱炭素＞

脱炭素の充電設備を全国に普及させるべく、パナソニック様
発足のＥＶ充電施設を広めて社会課題解決を目指す共創型コミュニティ
everiwaのメンバー企業となり、事務所に充電器を設置。
脱炭素の電力を充電することで脱炭素営業・納品を可能にしました。
弊社の取引先様へもCO_2を発生させないEVによる納品や来訪を勧め、
スコープ３を目指しています。

everiwa充電器でRE100電力での充電

・キイノクスプロジェクト＜木を活用した脱炭素＞

2023年6月に、森林環境の保全、地域経済の活性化、人々の心身の
健康など、社会的課題解決を目指すプロジェクト「キイノクス」
のメンバーに加入。
取引先・来客に、導入したデスクによる脱炭素や
プロジェクトについて紹介しています。

本社事務所に国産木材のデスク・天板を導入。
カーボンニュートラルに貢献しました。（0.45ｔのCO_2削減）

国産木材天板をのせ古机を再利用

カーボンニュートラル貢献量
証明書

太平電機株式会社

貢献量 0.45 t

キイノクス

カーボンニュートラル貢献量　証明書

本社事務所 国産木材デスク

8 -2.脱炭素を広める活動

・横浜市HP　脱炭素ガイドライン実践編　横浜市脱炭素・GREEN×EXPO推進局　令和6年4月版へ　弊社の取組が事例として掲載されました。
（掲載：7、17、18、19、27、28ページ）　https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/ondanka/etc/guideline.html

事例4　太平電機株式会社

設　立：1976年7月　資本金：1,000万円
従業員数：21名　業　種：卸売業
事業内容：電子部品を取り扱う提案型技術商社
所 在 区：神奈川区
URL　https://www.taiheidenki-kk.co.jp/

エコアクション21のPDCAサイクルを継続し、カーボンニュートラルを達成。

きっかけ　取引先から環境認証の取得要請があり、「環境経営」の取組が事業継続に必要であると判断した。

体制　代表取締役社長（環境管理責任者）、業務部長、営業所長等をメンバーとする環境管理委員会を設置。環境経営方針を基に全従業員で取り組んでいる。

取組ステップ

STEP 01　潮流を知る ▶ 方針を決める
取引先からの環境認証取得要請に加え、これからは環境を意識しない企業は生き残れないと感じ、2005年にエコアクション21を取得。PDCAサイクルを18年間継続、脱炭素化に関する世の中の動きを把握するため情報収集を常に行い、SDGsと絡めた多様な視点から脱炭素化の取組を検討。　顧客・取引先

STEP 02　CO_2排出量を把握する ▶ 取組を具体化する
事業活動を行う上でのCO_2排出源を抽出し、年度単位でエコアクション21の環境経営レポートを作成。CO_2排出量の実績値を踏まえて、更なる削減対象・削減目標を検討。設備導入・更新では脱炭素効果の高い設備を採用。

STEP 03　取組を実施する ▶ 取組を発信する
太陽光発電設備の導入、再エネ電力の契約、商用車の電気自動車（EV）への切り替え、Web商談やWeb会議の積極的な利用によりカーボンニュートラルを達成。効果の検証や検証結果を基に改善を行うなどPDCAサイクルを実践・継続しエコアクション21を維持。　削減効果の検証・改善　第三者認証等

脱炭素化に取り組んだことで…
企業ブランド価値が向上し、取引や採用に好影響
- 他社より早く取り組んだことから、先進事例として取り上げられるなど、社外に広く認知されている。
- 熱心な取引先とつながりやすくなったことで、商流全体でカーボンニュートラルを目指している。
- SDGs・脱炭素化の取組は、若年層への訴求ポイントとなり、採用につながっている。

27

太平電機株式会社

取組が進んだ大きな要因
- エコアクション21の運用を2005年から18年間継続しており、PDCAサイクルが定着していること。
- SDGsと絡めた多様な視点から脱炭素化の取組を検討していること。
- 毎週の朝礼で、代表取締役社長から全従業員に環境方針、目標、計画、実績を共有していること。
- 従業員が輪番で環境に関するスピーチを行うなど、従業員一人一人が環境問題を自分事として考えることができていること。

エコアクション21 環境経営レポート
社屋屋上に設置した太陽光パネル（埼玉営業所）
RE100電力で充電中の電気自動車（EV）

困ったこと・大変だったこと
- 脱炭素化の取組に対し、代表取締役社長はじめ、従業員全員のモチベーションを維持すること。
- 商用ワゴン車の電気自動車（EV）販売が遅かったため、化石燃料（ガソリン、軽油）使用量ゼロを実現するまでに時間がかかったこと。
- 通常業務を行いながら、環境関連法規等を常に追い続けて理解し、取組に反映すること。

太平電機株式会社 代表取締役社長 樋口 公平さん

事業者からの一言
今後の展望
仕入先と協力して、カーボンフットプリントの算定・開示を目指したいと考えています。カーボンニュートラルは達成できたため、これからは「マイナス」を目指します。カーボンニュートラルを達成した企業同士で同じ事業を興したいと考えています。自社だけでは達成できない新たな価値創造ができるのではないかとワクワクしています。また、生物多様性の領域への事業展開も進めています。

これから取り組む事業者へのアドバイス
脱炭素化への取組は「目に見えない自社の無形資産の形成」とも言えます。事業の一部として脱炭素化に取り組むことが重要と考えています。高効率設備への更新や太陽光発電設備の導入により、導入費用はその後の運用で回収できますので、早めに実施することをお勧めします。

専門家からの一言
代表取締役社長の環境に関する感度の高さが従業員の日々の仕事にも影響を与え、環境に配慮した事業展開が当たり前の価値風土になっています。エコアクション21の環境経営システムを余すことなく活用し、事業を運営しています。

28

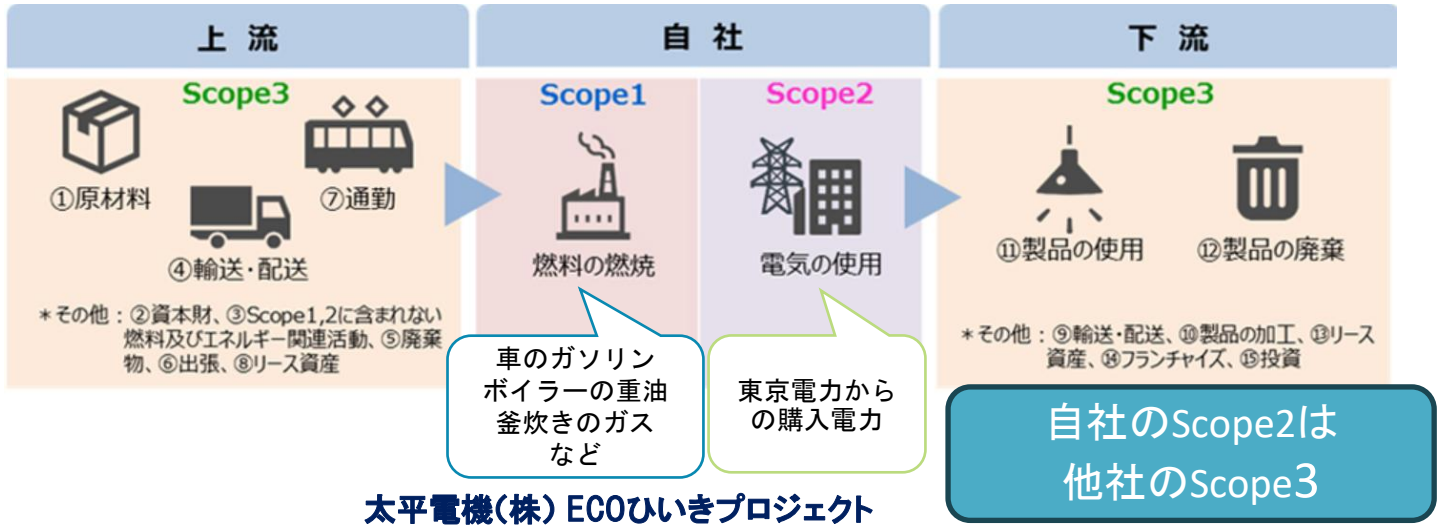
8 -3.脱炭素を広める活動

・仕入先の脱炭素をすすめる活動（カーボンフットプリント）

弊社は商社であり、次の販売商品群(コネクタ・ケーブル・ハーネスなど)を仕入先から調達しております。
その生産におけるCO_2削減に向け、まずは、ハーネス加工ではCO_2を出さずに作業をおこなえるよう、
提携している加工先様の生産時に使用する電力を、CO_2を排出しない電力へと置き換えていただけるよう
経営者向けの説明を始めています。一部の仕入先はソーラーの導入を決定した所も出てきました。

サプライチェーンとしてCO_2排出を見るScope1,2,3

- サプライチェーン排出量 ＝ Scope1排出量 + Scope2排出量 + Scope3排出量



太平電機(株) ECOひいきプロジェクト

・Scope1,2,3について
・脱炭素の取組方法　など、弊社社長が取引先へ訪問し、経営者様へ丁寧に説明しています

９．環境関連法規への違反、訴訟等の有無

法規制の名称	遵守状況の確認及び結果	違反・訴訟の有無
廃棄物処理法	遵守されている。	無し
自動車NOx・PM法	遵守されている。	無し
家電リサイクル法	遵守されている。	無し
小型家電リサイクル法	遵守されている。	無し
フロン排出抑制法	遵守されている。	無し
消防法	遵守されている。	無し
RoHS2指令	遵守されている。	無し

①遵守状況
　環境関連法規等の取りまとめ表で問題の無いことを確認致しました。

②違反、訴訟等について
　過去3年間、関係機関等からの指摘、地域からの苦情・訴訟等はありませんでした。

10-1. 代表者による全体の評価と見直し・指示の結果

10−1 全体評価

実施日：2024年 9月13日

項目	環境管理責任者の報告内容	代表者の評価及び指示	
		今年度の評価	次年度への改善指示
前期見直しの社長指示への取り組み結果	営業活動が再開したが、web会議と公共交通機関の積極的利用により社用車の利用削減に努め、車両台数減、カーシェアも利用開始。 48期後半から全車両EVへ切替完了。 充電器の設置によりCO2ゼロの充電ができるようになった。	期の後半でEVに切り替わり、排出係数ゼロの体制は整った。埼玉新倉庫の建設工事で東京電力を使用せざるを得ずCO2が発生してしまい残念だが、その他は2024年3月からCO2排出ゼロとなった。18年間の努力が実ったのは全員の協力の賜物である。	CO2ゼロからスタートするが、スコープ３のCO2削減を進める。 そのため取引先のCO2削減に協力していく。 スコープ３としてCO2が少ない商流を構築していく。
審査指摘事項の改善状況	環境経営レポートを期の終了から3か月以内に作成。	3か月以内に作成できた。	引き続き、3か月で作成するように。
環境関連法規制の遵守状況	法規制や条例の改正状況確認済。 法令遵守された。	法令改定の確認と遵守が継続できた。	引き続き、法令遵守徹底こと。
環境経営目標の達成状況	電気使用量の削減・・・・・・・・・・達成 （2021年6月から全社「RE100」電気に変更） ガソリン使用量の削減・・・・・・・**未達成** 軽油使用量の削減・・・・・・・・・・達成 廃棄物排出量の削減・・・・・・・・・達成 水使用量の削減・・・・・・・・・・・達成 環境配慮型コピー用紙への切替率・・100% 生物多様性の活動回数・・・・　・・28回 ※ガス設備廃止	ガソリン車からEVへの切替までの使用量による目標未達成が発生し残念。 EVへ切替後「CO2排出ゼロ」は評価できる。	引き続き、カーボンニュートラルとして努力するように。

10-1. 代表者による全体の評価と見直し・指示の結果

10−1 全体評価

項目	環境管理責任者の報告内容	代表者の評価及び指示	
		今年度の評価	次年度への改善指示
環境経営計画書の実施状況	全体的に周知、実施出来ていました。	計画書の実施状況は良好である。	引き続き実施のこと。
是正処置・予防処置の実施状況	・電気CO2排出量目標管理値 ・ガゾリン使用量 目標未達成のため、報告書を作成。	電気：埼玉新倉庫建設工事により東京電力使用でCO2が出てしまい残念。 ガソリン：EVへの車両切替が遅れガソリン車使用になった。	電気：次期はRE100電力とソーラーパネル増設で効果が出るよう利用法を変更すること。 ガソリン：車両切替済で次期は使用なしの予定。
緊急事態対応手順訓練の結果	避難訓訓実施と同時に緊急事態対応について教育実施。	防災士を2名会社費用で資格取得し、取得者による防災対応の教育ができた。	今後の災害を想定し、訓練・教育を続けること。
外部からの苦情・要望	特になし。	外部から苦情等がなく良好に事業活動ができた。	苦情等が起こらないよう活動を継続のこと。
環境経営方針	環境経営方針通り活動できた。	環境経営方針通り活動できたと考える。	環境経営方針の変更はなし。
実施体制	現状の実施体制で問題なく活動できた。	問題なく取り組みができたと考える。	現行体制のまま活動を続ける。

10-2.代表者による全体の評価と見直し・指示の結果

10−2 環境経営システムの変更の必要性

事項	代表者からの変更の必要性の指示	
環境経営方針	有り	無し
環境経営目標	有り	無し
環境経営計画	有り	無し
実施体制	有り	無し

・今期より、生物多様性の活動数（売上回数）を管理する。